

F

新しく優しい医療をあなたのもとへ

VOL.31
第31号 / 2025.11

Frontier

見える医療を開拓する。
福井大学医学部附属病院
情報誌「フロンティア」

特集 / Close Up Frontier

教育×研究

シームレスに多彩な
研究支援メニューを提供し
臨床力と研究力を高める

副病院長(研究担当)

山内 高弘

副病院長(教育担当)

小坂 浩隆

トピックス

呼吸器内科の紹介

感染症・膠原病内科の紹介

未来を見つめる「目の手術室」

座談会

進化著しい遺伝診療の「現在地」

レポート

がん化学療法担当薬剤師のお仕事拝見！

「医師からも患者さんからもより深く信頼されるように」

がん化学療法管理室主任 根来 寛

がん化学療法管理室薬剤師 重森 美奈

からだにひと工夫

筋肉が作る“ホルモン”





Frontier VOL.31

CONTENTS

「Frontier」に込めた想い

本誌は、患者さん、地域の皆さまとの接点をより密接にし、さらなる安心と信頼をお届けすることを目的に創刊しました。私たちが志向する最新・最適な医療に対する思いを6つの「F」に込め、つねにその先駆者であることを願って「Frontier」と名付けました。

Fukui	私たち「福井大学医学部附属病院」の
Function	果たすべき「役割・責務」を明らかにするため、
Forefront	最先端医療の「最前線」から
Face to face	患者さん、地域の皆さまに「きちんと向き合う」媒体として、
Fun	かつ、県民の皆さまが「楽しめる」情報も盛り込んだ
Friendly	「手に取りやすい」広報誌であることを目指します。

03 特集／Close Up Frontier

教育×研究

シームレスに多彩な
研究支援メニューを提供し
臨床力と研究力を高める

副病院長(研究担当) 山内 高弘

副病院長(教育担当) 小坂 浩隆

08 トピックス／Current Pick Up

呼吸器内科の紹介

感染症・膠原病内科の紹介

未来を見つめる「目の手術室」

11 診療の現場から／Watch

乳児頭の形外来

12 がん検診の定期受診 大切です、乳がん検診

13 座談会／Our Partner

進化著しい遺伝診療の「現在地」

出生前検査とがん遺伝子検査のニーズが急増
遺伝カウンセリングも2年間で倍増

遺伝診療部長、臨床遺伝専門医(地域健康学講座教授) 井川 正道
臨床遺伝専門医(小児科講師) 奥野 貴士
臨床遺伝専門医(産科婦人科講師) 津吉 秀昭
臨床遺伝専門医(産科婦人科助教) 玉村 千代
認定遺伝カウンセラー◎ 池田 和美

16 リポート／Report

がん化学療法担当薬剤師のお仕事拝見！

「医師からも患者さんからもより深く信頼されるように」

がん化学療法管理室主任 根来 寛

がん化学療法管理室薬剤師 重森 美奈

19 掲示板／Bulletin Board

ペイシエントハラスメントをご存じですか？

20 からだにひと工夫／Small Steps for Your Health

筋肉が作る“ホルモン”

21 良食良薬～カラダがよろこぶ健康食材～

22 健康お役立ちグッズ

23 患者さんの声／編集後記

教育 × 研究

シームレスに多彩な
研究支援メニューを提供し
臨床力と研究力を高める

福井大学医学部附属病院は県内唯一の特定機能病院として、高度医療の提供と並行して、医学研究・開発と質の高い医療の研修(教育)を実践する使命も担っています。そのため、医学生から専門医までをシームレスに育成できる強みを活かし、教育と研究部門が連携を深めながら多彩な支援メニューを医師に提供することで、病院全体の臨床力と研究力の底上げができます。教育と研究の両担当の副病院長が次世代に向けた展望を語り合いました。



副病院長(教育担当)
臨床教育研修センター長
医学研究支援センター治験管理部長

小坂 浩隆

こさか・ひろたか



副病院長(研究担当)
医学研究支援センター長
同研究・開発推進部長

山内 高弘

やまうち・たかひろ



副病院長（研究担当）
医学研究支援センター長
同研究・開発推進部長

山内 高弘

やまうち・たかひろ

平成元年、福井医科大学（現福井大学）医学部卒業、平成8年、同大学院医学研究科博士課程修了。福井医科大学医学部附属病院第一内科助手、米国・MDアンダーソンがんセンター博士研究員、福井大学医学部附属病院血液・腫瘍内科講師などを経て、平成27年、福井大学医学部病態制御医学内科学第一講座教授に就任。令和7年4月から現職。主な専門は血液内科学、腫瘍内科学、臨床薬理学、痛風・高尿酸血症など。

臨床研究や治験を支援する 医学研究支援センター。 充実した研修と環境を提供する 臨床教育研修センター！

山内 私は研究担当の副病院長であると同時に、医学研究支援センター長、同研究・開発推進部長を兼任しています。今日は医学研究支援センターの取り組みを中心に、最近のトピックなどを紹介したいと思います。

小坂 私は教育担当の副病院長に加え、臨床教育研修センター長と医学研究支援センター治験管理部長を兼任しています。臨床教育研修センター長の立場に軸足を置きながら、主に研修医の育成にかかわる活動と、彼らの研究マインドをど

う育んでいるかなどについて話したいと思います。

山内 医学研究支援センターは、臨床研究や治験を円滑に実施するための支援を行う中核です。主に臨床研究を支援する研究・開発推進部と、企業や医師主導の治験を支援する治験管理部で構成されています。研究・開発推進部は研究実施計画の事前相談や各種文書作成・契約などのほか、診療に追われて研究時間確保しにくい医師が効率的に研究できるような環境づくりに積極的に取り組んでいます。

小坂 臨床教育研修センターは「次世代を担う医療人の育成」をテーマに、初期臨床研修、日本専門医機構が定める「基本19領域」の専門研修プログラム、厚生労働省が定める歯科臨床研修プログラムを用意し、医療人としての人生のスタートダッシュを支援しています。各診療科での初期研修プログラムは、複数名の指導医による充実した教育システムとなっています。当センター内には広い研修医専用の共用スペースやセミナー室があるほか、最新のシミュレーターを揃えたメディカルシミュレーションセンターが併設されていますし、病院の目の前に安価な家賃で生活できる研修医専用マンションも設けるなど、快適で充実した研修環境を提供しています。

山内 本院が研究を重視している大きな理由の一つは、福井県内唯一の特定機能病院であることです。その主たる使命

として①高度医療の提供②高度医療技術の開発・評価③高度医療に関する研修の3つが掲げられています。このうち研究は②に該当します。特定機能病院の研究に関する承認要件に「査読付きの雑誌に掲載された英語論文数が年70件以上あること」とありますので、特定機能病院である以上、研究の活性化や底上げは必須なんですね。

小坂 教育担当としては、③の「高度医療に関する研修」の強化充実が主たるミッションになります。各診療科をローテーションする充実した初期臨床研修プログラムに加えて、比較的人数の初期研修医チームが多いので、診療科ごとに濃厚な勉強会も実施しています。私が所属する神経科精神科においても、疾患の説明や分かりやすい薬の使い方などをテーマに入門セミナーのような形で勉強会を開いています。また、臨床教育研修センターでも定期的に、初期研修医を主対象とする勉強会「コアレクチャー」を開いており、本院の初期研修医に対する教育は充実していると自負しています。

**研究マインド持つ医師の育成は
大学病院しかできない。
患者さんを大切に思えばこそ
医師人生を通して研究すべき。**

山内 本院が研究を重視するのは特定機能病院だからという理由だけではありません。そもそも医学研究がなされてこそ医学が進歩する、言い換えれば患者さ

教育・研修と研究・臨床の充実は 特定機能病院としての重要な使命。 研究の効率化に資する 新システムを導入。

んに対する診療が進歩するわけです。それができるのは、診療に携わり、研究指導者がいて、研究環境や支援が充実している大学病院しかありません。したがって、研究は大学病院の本分と申し上げてもよいでしょう。

小坂 患者さんを大切にしたいと思うからこそ、医師は研究を続けるわけです。医師人生を通してずっと研究し、学び続けなければ、目の前の患者さんに対して失礼だと思いますよ。もちろん実験室でマウスを使つて行う研究だけが研究ではありません。例えば学会に参加して、世界の最先端の研究を学んで、それを目の前の患者さん、つまり地域医療にフィードバックするのも研究ではないでしょうか。

山内 同感です。25歳前後から40年間医師をやるとして、良医として第一線で活躍し続けるためには、常にリサーチマインドを持ち、急速な医学の進歩に合わせて新しい医療知識をキャッチアップし、アップデートを続けなければなりません。そうした医師を育てる上で、医学生時代から初期臨床研修、専門研修まで、シームレスに学び続ける機会を提供できる大学病院は大きなアドバンテージを持っているのです。

小坂 本院も研修や教育によって若手医師の臨床力を高めるだけでなく、研究マインドを涵養し、研究に取り組むための多彩な支援メニューも用意しています。それらを大いに活用することで求められる

医師像を明確にイメージし、体現に向けてしっかりとスタートを切れるはずだと思います。

運用始めたTidy Medは 後方視的観察研究の強力な武器。 臨床試験や治験に利点大きい EDCシステムの導入。

山内 研究・開発推進部では近年、特に効率的に研究に取り組める支援に力を入れていきます。直近ではTidy Med（タイディ・メッド）を導入し、6月から運用を始めました。電子カルテと連動させて、年齢、性別、疾患、治療薬などさまざまなくくりで患者集団を抽出し、各患者の疾患の有無、薬剤投与、臨床検査値、イベントなどのカルテデータを自動転記できるシステムで、研究者がこれまで苦労していた手作業による転記の手間や入力ミスがなくなるため、後方視的観察研究（※1）を行う際の強力な武器になります。また、英語論文の作成を支援するため、外部に委託している英文校正の経費を病院と医学部に増額しました。

小坂 英語論文の校正に関しては金銭的支援だけでなく、便利な新しいツールについて積極的に情報提供してもらえるのもありがたいですね。私も「これを使うと楽ですよ」と推薦いただいて、Paper Pair（ペーパー・ペア）という英語論文作成・校正ツールを利用して、大いに重宝しています。特に若手は吸収が早く、こうした新しいツールもすぐに使いこなせ

ますので、どんどん活用すべきだと思いますし、実際利用者が広がってきているようです。

山内 もう一つ、REDCap（レッドキャップ）というEDC（エレクトロニック・データ・キャプチャー）システム（※2）の導入も進めています。これまで本院にはEDCシステムがなく、各研究者がエクセルでデータ収集していたため、他施設からのデータ収集が困難、データのリアルタイム収集ができない、データの一元管理ができず全体状況が把握できないなどから、多施設共同大規模前向き研究を主導できませんでした。電子カルテから簡単にパソコンで入力できるREDCapの導入により、各研究者からの症例報告書データ収集、研究対象者からのデータ収集やインフォームドコンセント実施が容易にできるようになります。これを活用することで高いレベルの臨床研究が可能になり、質の良い論文が増えると見込んでいます。

小坂 特に臨床試験や治験を実施する上で大きなメリットがありそうですね。治験管理部では、治験コーディネーター（CRC）という専門職を中心に、治験の実施・管理、製造販売後調査、治験実施委員会や契約事務など幅広くサポートしているのですが、効率化に資するREDCapを活用すれば、治験の活性化にもつながるのではないのでしょうか。

山内 治験は患者さんの同意をいただいた上で、実際に薬を使っていたら、効果

※1 後方視的観察研究:過去に収集されたデータや既存の情報を用いて、過去の出来事や現象を分析する研究方法。

※2 EDCシステム:症例報告書の内容などを入力し、そのデータをインターネットや専用回線経由で電子的にサーバに取り込むシステム。

「臨床研究のすすめ」セミナー通じて 研究意欲喚起や研究リテラシーを向上。 「Under 40 club」「Resident club」の 活躍により初期臨床研修医の応募者が激増。

や副作用を確認するものです。その結果を厚生労働省所管の独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)で評価してもらい、新薬として認可されることを目標にしています。新薬を開発して新しい治療を推進する非常に重要なプロセスです。

小坂 治験に携わることは医師人生の中でも重要な経験になるはずです。50歳、60歳になってからだとなかなか関与できませんので、若手医師のうちに一度は経験すべきでしょう。それによって新たな治療計画とかアイデアのヒントを得られるはずですし、医師主導の治験に参画できる可能性も広がると思います。

山内 学内専用のREDCapは今秋中に導入し、年内には学外利用も可能になる予定です。

**研究マインドを育むために
学会参加を費用補助で後押し。
博士号を2年早く取得できる
ATMプログラムをアピール。**

小坂 臨床教育研修センターでは若手医師の研究マインドを育む目的で、学会に参加する初期研修医に対して学会参加費や出張費を補助していますし、修学支援金として年間3万円の図書カードを支給しています。また、学会に参加しやすい環境づくりにも努めていて、学会で症例報告などを行う場合、別の診療科での研修中であっても遠慮なく学会に参加できますし、学会参加と当直日が重ならない

いよう日程調整も心がけています。

山内 医学研究支援センターでも若手医師の研究マインドを醸成する一環として、令和3年から「臨床研究のすすめ」のタイトルでシリーズセミナーを開催しています。教育・研修、外部資金獲得、研究立案、知的財産獲得、論文作成など、幅広い教育的な内容になっており、医学研究や看護研究の好事例も紹介することで、研究意欲の喚起や研究リテラシーの向上につなげたいと思っています。先ほど紹介したTidy Med、英文校正支援、英語論文作成支援ツール、REDCap、研究者のキャリア紹介など医学研究支援センターが提供している多くの支援メニューの最新情報も発信しています。セミナーの講演内容を活字化して、ホームページや院内だよりにも掲載しています。

小坂 医学系研究科の博士課程へ進学して研究を行い、研究医を目指す学生に対し、科目早期履修制度を設けている「ATMプログラム」は研究医の育成に直結する効果的な支援策です。医学科4、6年次生のうちに博士課程科目の講義を受講し、研究科入学後に大学院の単位として認定します。また、初期研修中に大学院博士課程を同時履修でき、初期臨床研修医にも研究医としてのキャリアパスの機会を提供しています。これにより通常より2年早く博士号を取得することも可能になります。さらに、博士課程1年目の授業料が半額免除されます。

山内 大きなインセンティブが用意され

ている魅力的なプログラムですね。

小坂 平均すると本学医学生から年3人、研修医から年0.5人がこのプログラムに参加しています。現在も将来本院を背負って立つてほしいと期待する人材が初期研修医としてこのプログラムに参加しています。今後も研究意欲の高い研修医を一人でも多く確保できるよう、積極的にアピールしていく方針です。

**「Under 40 club」が
医学生や初期研修医と交流。
研修医の横のつながり深め
診療科超えた共同研究へ。**

山内 臨床教育研修センターで取り組んでいる「Under 40 club」も若手医師の研究マインドの醸成に貢献していますね。

小坂 全診療科の中堅医師から選ばれたやる気にあふれたメンバーからなる指導教員組織です。診療参加型臨床実習や初期研修の中心的指導を担っており、医学生や初期研修医と定期的に交流を行い、専門医としての臨床経験や、基礎から臨床研究も同時に行っている研究生活の実情を伝えてくれています。このメンバーとの交流を中心に、医学生時代から本院での研修プログラムや医師人生を想像しやすく、期待が膨らむように活動内容も工夫を凝らしていきます。

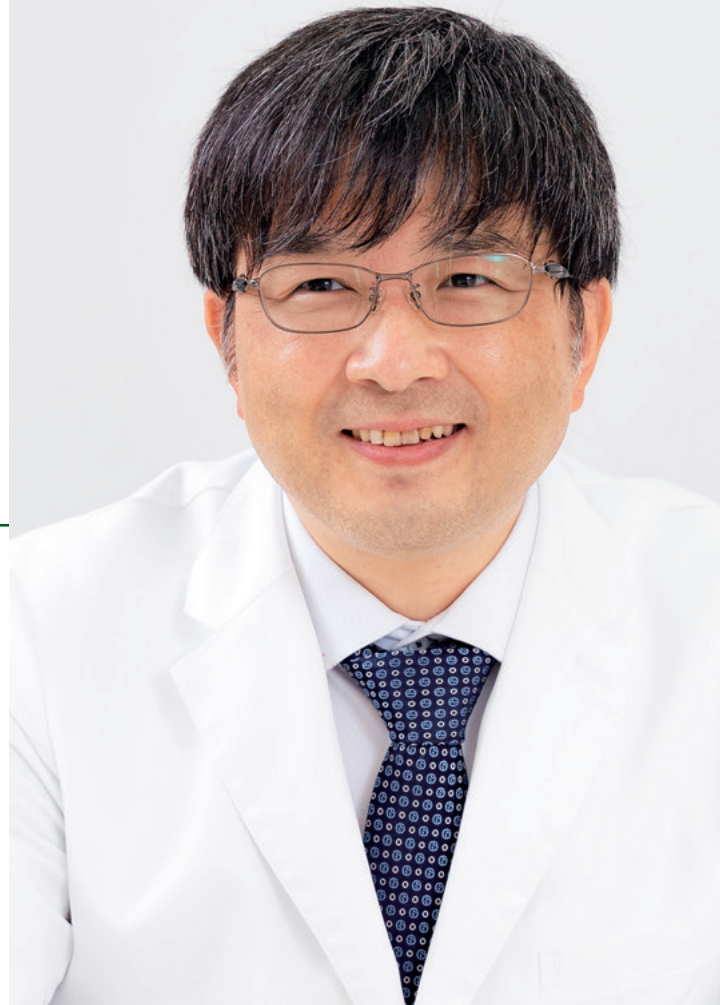
山内 今年度は初期研修医の応募者がすごく増えたと聞いていますが、Under 40 clubメンバーの活躍もあったので

副病院長（教育担当）
臨床教育研修センター長
医学研究支援センター治験管理部長

小坂 浩隆

こさか・ひろたか

平成10年、福井医科大学（現福井大学）医学部卒業。平成16年、同大学院医学研究科博士課程修了。福井医科大学医学部精神医学教室、福井県立病院こころの医療センター心身医療科科長、福井大学医学部精神医学講座助手・助教、同子どもこころ発達研究センター特命教授、同教授などを経て、平成30年、福井大学医学部精神医学講座教授に就任。令和7年4月から現職。専門は児童青年精神医学、神経発達症、脳画像学など。



はないでしょうか。

小坂 おっしゃるとおりです。昨年度は28人だった応募者が、今年度は90人に激増しました。Under 40 clubの中から副センター長を指名し、先生方が積極的に医学生に対するプレゼン活動に取り組んでくれた成果だと受け止めています。従来は教授陣がずらっと並ぶ形だった面接から一転、今回は私と、応募者と世代が近いUnder 40 clubメンバーで対応した結果、親しみやすさを感じてもらえた手ごたえもあります。実は研修医が本院での研修の魅力を医学生に伝える「Resident club」も立ち上げていて、メンバーがいろいろ企画で医学生のリクルートに活躍してくれていますので、初期研修医の増加に一層、

弾みがつくといいですね。むしろ、今回はその効果がより大きかったと思います。昨年の13人をかなり上回る初期研修医を確保できるものと期待しています。

山内 研修医の研究意欲をさらに高める工夫も期待したいところです。

小坂 今までは医局ごとの縦割り色が強かったのですが、今後は研修医同士の情報交換の機会を増やし、横のつながりを深めることで、診療科を超えた共同研究につながればいいと思っています。

**他大学と幅広く連携し
世界に発信できる臨床研究を。
教育と研究の両輪で
地域に貢献する責務も担う。**

山内 研究には基礎研究と臨床研究があるわけですが、本院では基礎医学の先生だけでなく、臨床系の先生も基礎研究に取り組んでいます。ただ、基礎研究の世界は進歩が非常に速く、大規模な実験データを集めなければならぬ時代になっていますので、診療に追われている先生にとっては大きな負担になっています。臨床研究も大量のサンプルが必要なので、本院単体ではなく、他の大学病院や関連病院も含め幅広く連携して取り組むのが望ましいかもしれません。他の大学病院とタッグを組むことで、世界に発信できる高レベルの結果を出すことも可能だと思っています。

小坂 特定機能病院の評価においても、論文数だけでなく、国際的に評価の高い

投稿先であることもモノサシの一つになっていますね。その研究成果が地域に還元できるものかどうかといった社会への影響力も評価されるんですね。そういう意味では特に臨床研究の充実を図ることが大事ではないでしょうか。

山内 医学研究支援センターとしては、とにかく研究の底上げに努めることが使命です。Tidy Med、英文校正支援、REDCap、「臨床研究のすずめ」セミナーを4本柱として、研究支援を強化していく方針です。ただ、院内での周知がまだ十分ではない面がありますので、各診療科を直接回って、研究支援を二つ丁寧説明させていただく活動を始めました。研究の底上げが、最終的に教育の底上げや働き方改革にもつながるはずですので、特定機能病院としての発展に少しでも貢献したいと思っています。

小坂 教育だけ、研究だけでは大学病院、特定機能病院としての使命を果たせませんし、地域に貢献する病院としても物足りないはずですので、病院執行部の一員として教育と研究の連携を深めながら、ともに力を発揮できるシステムを提供する責務があると思っています。それを正しく分かりやすく伝え、多くの研修医が集まっていたら、本院が福井県の中核、北陸の中核、さらには日本の中核病院になれるよう頑張っていく所存です。

呼吸器内科の紹介

呼吸は、人が生きていく上で欠かすことのできない大切な働きです。私たち呼吸器内科では、その呼吸にかかわる病気を幅広く診療しています。

呼吸を支える診療科

呼吸にかかわる病気には、長引く咳の原因となる喘息やアトピー咳嗽（がいそつ）、気管支喘息、タバコの影響で起こる慢性閉塞性肺疾患（COPD）といった気道の病気があります。さらに、肺炎や気管支炎、胸膜炎、肺結核といった感染症、また近年患者数が増えている肺がんや間質性肺疾患も対象です。

間質性肺疾患は日本人の死因の上位に入ってくる可能性がある重要な病気であり、特に力を入れて診療しています。また、新しい薬が開発される一方で副作用として薬剤性肺炎が起こることもあり、他の診療科と連携して治療にあたる場面も多くあります。対象となる患者さんは小児から高齢の方まで幅広く、一人ひとりの一生の呼吸を支えることを目指しています。

多彩な検査と全国レベルの診断体制

診断には、採血や胸部レントゲン、CTやPETなどの画像検査に加え、肺活量

を調べる呼吸機能検査、血液中の酸素や二酸化炭素を調べる動脈血ガス検査、痰の検査などを組み合わせます。必要に応じて気管支鏡検査、心臓の検査、睡眠時無呼吸の検査なども行い、総合的に判断します。

特に間質性肺疾患や肺がんなど診断が難しい病気については、全国の専門家とWeb会議を行い、胸部の放射線科医や病理医とも協力して診断・治療方針を検討します。間質性肺疾患の診断・治療方針決定にWeb会議の診療体制を持つのは北陸で本院だけであり、患者さんにとってより安心できる医療を提供しています。

チームで支える医療

治療の進め方も特徴的です。医師が一方的に方針を決めるのではなく、看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、栄養士など多職種がチームを組み、患者さんやご家族と一緒に相談しながら進めていきます。検査や治療には負担が伴うこともあります。ですが、できる限り体に優しく、速やかに行

うよう心がけています。

また、間質性肺疾患や喘息、慢性の咳を対象に治療も積極的に実施しており、従来の治療で症状が改善しない方には、新しい治療を受けていただける可能性もあります。

地域とともに進めるプロジェクト

さらに、福井大学を中心に「FIND- AIRプロジェクト」を立ち上げ、福井県全体で呼吸器診療の質を高める活動を進めています。このプロジェクトは、地域で十分な治療を受けられない患者さんを発見し、必要な医療につなげることを目的としています。県内の主要病院や医師会、日本呼吸器学会とも協力し、医療者同士の横のつながりを深めながら、地域格差の解消に取り組んでいます。

一生の呼吸を守るために

私たち呼吸器内科は、これからも地域の皆さまが安心して呼吸を続けていけるよう、一生涯にわたって支え続ける医療を提供してまいります。



呼吸器内科 教授
わせだ・ゆうこ

早稲田 優子

感染症・膠原病内科の紹介

感染症・膠原病内科は、内科診療科のひとつで、感染や自己免疫疾患に関する幅広い疾患を診療します。

自己免疫疾患と感染症の診療

自己免疫疾患には過剰な免疫を抑えるために免疫抑制剤を使用しますが、その結果として感染症にかかりやすくなります。当科には感染症に強い感染症専門医と、関節リウマチや膠原病を診療するリウマチ専門医が揃っており、両領域の知識を生かした診療が可能であることが強みです。

感染症に起因する全身疾患である敗血症、新型コロナウイルス感染症、ダニ媒介感染症である日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）をはじめとした重症感染症の診断と治療を行っています。また、感染症はすべての診療科に関連しており、当科では、各科からのコンサルテーションに対応し、必要に応じて併診することもあります。

HIV感染症診療

福井県の中核拠点病院として、多職種によるチーム医療を実践しています。HIV感染を早期に診断し、適切な時期

に強力な抗ウイルス療法を開始するよう努めています。かつてはエイズを発症し、致死的であったHIV感染症も今では1日1錠の内服や、2カ月に1回の筋肉注射でコントロール可能となりました。患者さんの希望にあわせて、内服、注射を選択し、薬剤耐性のHIVウイルスの出現や他の感染症の合併にも十分注意を払い診療を進めています。

膠原病診療

関節リウマチ、全身性エリテマトーデスをはじめとする自己免疫疾患を対象としています。自己免疫疾患の治療は、生物学的製剤やJAK阻害薬の出現により劇的に変わり、新時代を迎えています。早期より強力な治療を行うことにより、寛解率の上昇が期待されることも示唆され、早期診断、早期治療が重要となってきました。この時期を逃すことのないよう、最適な治療を提供することを目指しています。

不明熱の診療

発熱を中心とした原因不明の疾患の鑑

別、治療に当たります。原因不明の発熱はしばしば経験されますが、このような疾患の中には、感染症、膠原病が数多く含まれます。時には腫瘍が見つかることもあります。時には腫瘍が見つかることもありますが、その場合は適切な診療科に速やかに紹介します。原因が特定できない発熱が1週間以上持続する場合、当科への紹介をご検討ください。

感染管理

私たちは院内の感染管理の役割も担っています。感染制御チーム（ICT）と抗菌薬適正使用支援チーム（AST）を組織し、院内感染の予防と抗菌薬の適正使用を推進しています。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されるチームで毎日カンファレンスを行い、サーベイランス、抗菌薬使用状況の評価、症例検討などが話し合われています。また、院内ラウンドによって、現場での感染対策の指導を行っています。これらの活動を通じて、患者さんの安全と医療の質のさらなる向上を目指しています。



感染症・膠原病内科 教授
さかまき いっぺい
酒巻 一平

未来を見つめる「目の手術室」

高齢になると多くなる白内障や緑内障といった目の病気が、本院では「目の手術室」で高まるニーズに応えています。

高齢化により増える目の病気

日本はどんどん高齢の方が増えている社会です。人口は減ってきていますが、福井県では65歳以上の方が今後10年くらいはまだ増える予想されています。高齢になると白内障や緑内障といった目の病気が多くなりますので、病院としてはそのニーズにしっかり応えていくことが大切です。

「目の手術室」で多くの手術が可能に

本院では、こうした状況に備えて令和5年5月に「目の手術室」を新しくつくりました。眼科専用の手術室が2部屋あり、平日は毎日フルに動いています。そのおかげで、今までより多くの患者さんの手術を受け入れることができるようになりました。実際に、近くの病院では白内障の手術を受けるまでに2カ月から6カ月も待つ場合があります。しかし、本院では基本的に1カ月以内に手術が可能です。地

方で生活する上で大切な運転免許の更新に必要な視力についても、早めの手術で間に合うようお手伝いできます。免許更新の期限が近い方や、視力が下がって生活に困っている方は、どうぞご相談ください。

“見える力”を守るための拠点

手術の件数も年々増えています。令和6年度には2000件を超える手術を行いました。白内障だけでなく、緑内障、網膜や硝子体の手術、まぶたの手術、角膜移植など、幅広い目の病気に対応できるのも大学病院の強みです。新しい手術室ができたことで、より多くの患者さんに安全で安心な医療をお届けできるようになりました。「目の手術室」は、これから高齢の方が増えていく時代に、皆さんの「見える力」を守るための大切な拠点です。本院の眼科は、地域の皆さまが安心して手術を受けられるよう、これからも力を尽くします。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
網膜硝子体	388件	417件	472件	671件
水晶体再建術	570件	766件	803件	872件
緑内障	188件	239件	264件	302件
眼瞼	84件	90件	159件	105件
斜視	18件	23件	33件	20件
角膜移植	13件	1件	3件	6件
その他	37件	44件	40件	49件
合計	1,298件	1,580件	1,774件	2,025件

図1 本院の手術件数の推移



コロナ自粛の時期に「目の手術室」はオープンしました



眼科 教授
いなだに・まさる
稲谷 大

診療の現場から 24

乳児頭の形外来

形が変わりやすい時期に

乳児の頭蓋はとても柔らかく、生後4カ月頃までは、向き癖や長時間の仰向けで形が変わりやすい時期です。軽い変形は自然に整うこともあります。中等度以上では顔の左右差やかみ合わせ、耳や視力への影響につながる可能性があります。外来では丁寧な問診・視診・計測に加え、必要に応じてレントゲンやCTで頭蓋骨縫合早期癒合症などの病気を慎重に除外します。

ご家庭でできる工夫

まずはご家庭でできる予防を一緒に確認します。授乳や寝かせる向きを交互にする、起きている時間に「タミータイム（うつぶせ遊び）」を取り入れるといった工夫です。それでも改善が乏しい場合は、ご家族の希望に沿って「ヘルメット治療」を検討します。

成長の力を生かす

ヘルメット治療

ヘルメット治療は、成長の力を生かして形を整える方法で、生後2〜7カ月が開始の目安。本院では3Dスキャンでオー

ダーメイド作製し、月1回の通院で細やかに調整します。治療期間はおおよそ半年、費用は自費（総額55万円）です。

まずはご相談を

「大丈夫と言われても心配」は自然なことです。頭の形が気になるときは、まずかかりつけの先生にご相談ください。紹介状がなくても受診できますが、紹介状があれば診療がスムーズで費用負担も軽くなります。遠慮なくご相談ください。



位置的頭蓋変形の例

左から斜頭、長頭、短頭。頭の成長度が高い時期は向き癖で変形しやすく、変形の程度に応じて家庭での工夫や治療を考えます。

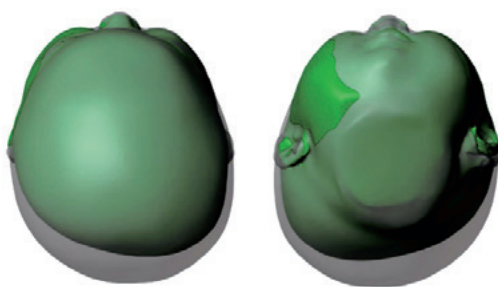


図1 タミータイム（うつぶせ遊び）

起きている時間に保護者の見守り下で実施。1回5分程度から始め、少しずつ延長します。後頭部への圧を逃がし、首や体幹の発達も促します。

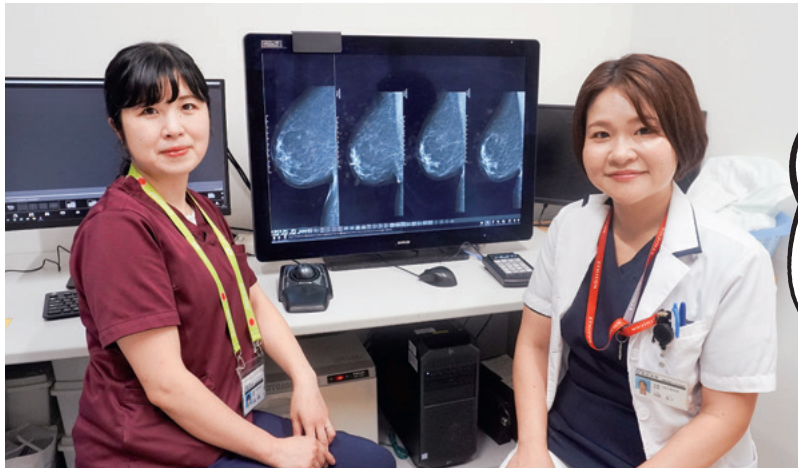


「後頭部が平らに見える」「左右差が気になる」——
赤ちゃんの頭の形に戸惑うことは、決して珍しくありません。私たちはその不安に寄り添うため、2022年10月に県内初の「乳児頭の形外来」を開設しました。

図2 オーダーメイドの頭蓋矯正ヘルメット
クルムフィット®図3 左斜頭症に対する治療前後のスキャン比較
治療前（緑色）、5カ月間の治療後（灰色）

がん検診の定期受診 大切です、乳がん検診

乳がんは、無症状のうちに検診を受診すれば早期発見につながり、適切な治療によって治癒の確率も高くなりますので、定期的な検診をおすすめします。



私たちが
読影します

乳腺・内分泌外科
河野 紘子医師
高橋 瑞穂医師

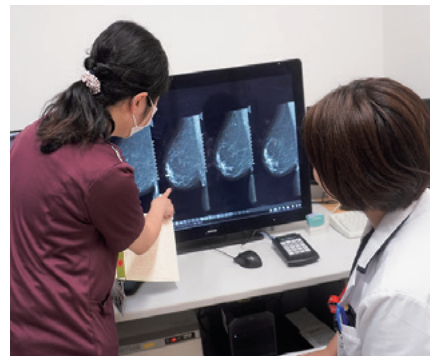
福井県内にお住まいの方で、市町から郵送される乳がん検診のクーポン券(受診券)をお持ちの方を対象に乳がん検診(マンモグラフィ検査のみ)を実施しております。

令和7年度の検診日は次のとおりです。

検診期間／令和7年6月2日(月)～令和8年3月23日(月)

検 診 日／毎週月曜日14:00～15:00 4枠
毎週金曜日13:15～13:45 2枠

予約は、お電話(0776-61-3111)の他、
下記二次元バーコードからの予約も可能です。



乳がん検診の予約方法

乳がん検診は完全予約制です。

下記の二次元バーコードからお申し込みください。



二次元バーコードからの
お申し込みが難しい場合は、
お電話にてお申し込みください。

TEL : 0776-61-3111 (代表)
「乳がん検診希望」と
お伝えください。

注意事項

※市町のクーポンの無い方は受診できません。
※2025年度の検診はマンモ撮影のみです。触診はありません。

・当日持参する物 ①クーポン券(受診券) ②診察券 ③保険証

・受付方法

受診歴のある方

- ・再来受付機に診察券を入れて受付後、15分前に放射線部受付へお越しください。
- ・放射線部の受付のところで担当者が待っているので、案内を受けてください。
- ・所要時間は約1時間。当日の混み具合により、前後することがあります。

受診歴のない方

- ・2番窓口にて受付後、15分前に放射線部受付へお越しください。
- ・放射線部の受付のところで担当者が待っているので、案内を受けてください。
- ・所要時間は約1時間。当日の混み具合により、前後することがあります。

※キャンセルされる場合は、0776-61-3111へ
お電話いただき「乳がん検診」とお伝えください。

臨床遺伝専門医(産科婦人科助教)
玉村 千代
たまむら・ちよ

臨床遺伝専門医(小児科講師)
奥野 貴士
おくの・たかし

遺伝診療部長
臨床遺伝専門医(地域健康学講座教授)
井川 正道
いかわ・まさみち

臨床遺伝専門医(産科婦人科講師)
津吉 秀昭
つよし・ひであき

認定遺伝カウンセラー®
池田 和美
いけだ・かずみ

座談会 Our Partner

進化著しい遺伝診療の「現在地」

出生前検査とがん遺伝子検査のニーズが急増。遺伝カウンセリングも2年間で倍増



遺伝診療部長
臨床遺伝専門医(地域健康学講座教授)
井川 正道
いかわ・まさみち

井川 遺伝子解析技術の飛躍的な進歩により、遺伝医学が目覚ましい発展を遂げています。特に産科領域では新型出生前診断とも呼ばれる「NIPT(非侵襲性出生前遺伝学的検査)」が急速に普及していますし、がん領域でも遺伝子解析技術を用いて、適切な治療薬を選択するための「コンパニオン診断」や複数のがん関連遺伝子を調べる「がん遺伝子パネル検査」が浸透してきました。本院は平成21年に福井県内で初めて遺伝診療部を立ち上げて診療体制を強化するとともに、臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラー®による遺伝カウンセリングを開始

し、遺伝性疾患に関する患者さんの悩みや心配事に適切な情報提供や助言を行っています。
奥野 本院は県内唯一の臨床遺伝専門医制度研修施設にも認定されており、現在では臨床遺伝専門医9人と県内唯一の認定遺伝カウンセラー®を擁する北陸随一の体制を築き、県内の遺伝診療をリードしていると自負しています。
池田 遺伝カウンセリングは基本的に臨床遺伝専門医、主治医、認定遺伝カウンセラー®の3人がワンストップ型で実施します。完全予約制で、基本的には自費診療ですが、一部は保険診療にも対応

臨床遺伝専門医9人と、 県唯一の認定遺伝カウンセラー®

遺伝子解析技術の飛躍的進歩に伴い、遺伝診療が急拡大しています。本院遺伝診療部は、臨床遺伝専門医9人と認定遺伝カウンセラー®を擁する北陸随一の体制のもと、出生前検査やがん遺伝子検査をはじめとした各種の遺伝学的検査、および患者さんやご家族を支援する遺伝カウンセリングを提供しており、検査や相談が急増しています。最前線で活躍する遺伝診療部の精鋭たちが進化著しい遺伝診療の「現在地」を紹介します。



臨床遺伝専門医(小児科講師)

奥野 貴士

おくの・たかし

しています。時間は1回1時間程度です。

他の医療機関からの依頼だけでなく、患者さん直接の相談にも対応しています。症状のないご家族に対しても、発症前診断や保因者診断を含めた相談に応じています。

津吉 臨床遺伝専門医は脳神経内科、乳腺・内分泌外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、産科婦人科、小児科と幅広い診療科にまたがっていて、あらゆる疾患を対象に遺伝に関する相談に応じることが

遺伝子解析による正確な診断・治療へのアプローチと遺伝カウンセリングの役割

井川 がん領域に関しては、治療薬の選択に遺伝学的検査が必要になったことに伴い、遺伝性がんの可能性もわかるようになり、需要が急速に高まっています。

津吉 コンパニオン診断とがん遺伝子パネル検査が保険適用になった影響も大きいですね。コンパニオン診断は特定の分子標的薬が使用できるかを検討するため、対応する遺伝子を調べる検査です。また、がん関連遺伝子を網羅的に調べ治療薬の選択につなげるがん遺伝子パネル検査も増加しています。これらの検査では、遺伝性の可能性がある遺伝子の変化が見つ

できます。

玉村 関心の高まりや受け入れ体制の充実に伴い、遺伝力ウンセリングの件数は近年急増していて、令和6年は約310件に達しました。令和元年からの5年間で6倍、令和4年からの2年間でも倍増しており、増加の勢いは加速しています。神経筋疾患、がん、先天性疾患、周産期に関する相談が中心ですが、その中でもがんと周産期の相談件数が突出しています。

かることがあり、その場合には遺伝力ウンセリングが必須となっています。

奥野 小児科領域では、赤ちゃんの先天性疾患を見つける「新生児マススクリーニング検査」で調べられる疾患が増えたこともあり、遺伝がかかわるケースが増加しています。この検査で陽性になった場合、遺伝学的検査の意味を検討するため、遺伝力ウンセリングが必要となります。また、先天性疾患に加え、血液腫瘍、アレルギー・免疫疾患、腎疾患などでも遺伝的要因がかかわる症例が増えています。**玉村** 産科領域では、採血で行う出生前



臨床遺伝専門医(産科婦人科講師)

津吉 秀昭

つよし・ひであき

検査であるNIPTの相談が増えています。本院は5年前から県内初の認可施設としてNIPTを開始し、令和4年7月には出生前検査認証制度運営委員会の基幹施設に認証されました。県内の他の医療機関と連携し、出生前検査を希望する妊婦さんに対応できるようになっています。本院では検査を希望する妊婦さんの受け入れや、他院で陽性になった妊婦さんのフォローも行っています。NIPTでは胎児の罹患は確定できないので、陽性になった場合は羊水検査など確定検査を行うこととなります。

池田 NIPTの実施には事前の遺伝力ウンセリングが必須です。県内ではここ2、3年、ニーズが急増していて、令和6年

全ての医師が遺伝リテラシーを高め 確かな情報を患者さんに

井川 臨床遺伝専門医はみな自分が所属する診療科との兼任ですので、これだけ需要が増えてくると、遺伝力ウンセリングの日程調整がかなりシビアになってきています。

津吉 特にがんの場合は診療科が多岐にわたっているので、遺伝力ウンセリ

は本院を含めた県内5施設でNIPTに関する遺伝力ウンセリングは263件、NIPT検査は213件行われました。このうち本院での実施はそれぞれ53件、43件でした。

奥野 県内の年間出生数は約4300人ですから、NIPTを受検するのは約5%ということになります。自由診療なので20万円前後の費用がかかることや、出生前検査には他の選択肢もあること、さらにはご夫婦にとって本当に必要な検査かどうかをよく考えていただくことを重視し、事前に遺伝力ウンセリングを受けていただいていることなどから、この割合になっていると思われるます。

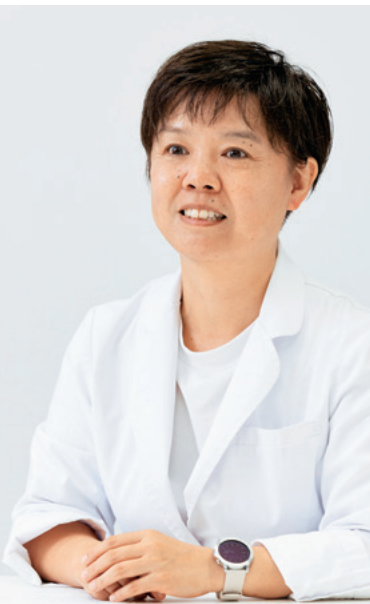
ングの日程調整だけでなく、主治医とのすり合わせや、患者さんご家族に対するフォローなどを調整する認定遺伝力ウンセラー®の存在は本当に貴重です。これからは、医療機関同士のネットワークを築き、最新の動向やフォロー検査のあり方などを発信・共有する機能を備



臨床遺伝専門医(産科婦人科助教)

玉村 千代

たまむら・ちよ



認定遺伝カウンセラー®

池田 和美

いけだ・かずみ

えた体制づくりも求められていると思います。

玉村 NIPTは全ての妊婦さんに正しく情報提供がなされ、判断していただくものです。本来は一部の臨床遺伝専門医だけが担当するのではなくて、産科医全員が遺伝について一定の知識を持って診療する必要があると思います。産科に限らず、ほとんどの疾患に遺伝性のあることが明らかになってきているので、むしろ全ての医師が遺伝に関するリテラシーを高めていくべきです。

津吉 同感です。少なくともがんにかかわる医師は、遺伝の知識を持っている必要があります。遺伝性のがんであると分かれば、ご家族も含めてがんを予防できるかもしれません。遺伝性について患者さん側にしっかり情報をお伝えし、早期発見につなげていくことが大事ではないでしょうか。

井川 出生前検査は陰性の期待を持って受検する妊婦さんがほとんどですが、

着床前検査がつかないだ、妊娠 福井の遺伝診療をけん引する原動力

井川 遺伝診療では症状のない段階から

一定の確率で陽性が出ますので、遺伝カウンセリングは、その時にどうするかという想定ができていますかと問われる役割も担っています。

奥野 小児科ですと、お子さんの遺伝学的検査の結果から、健康なご両親にも保因や病気の可能性が分かることがありますし、結果次第ではきょうだいの検査が考慮される場合があります。どこまで検査すべきかの判断が悩ましく、ご家族の様子をよく観察しながら柔軟に対応するようにしています。

池田 同じ内容を伝えても、とらえ方は人によって違います。誤解なく理解していただくにはどうしたらよいか、この受け止め方をした患者さんにはどうフォローすべきか、ご家族も同席してもらった方がよいか、こうした想定や判断もカウンセラーの重要な役割です。正しく知って正しく恐れていたできるように努めつつご本人の意思決定をしっかりと支えていかねばなりません。

らかかわることがあり、一般の診療より

患者さんやご家族の人生に継続的に寄り添えると実感します。遺伝カウンセリングでは1時間ほどかけて、その方のバックグラウンドまでお伺いして深くお話しすることができます。そのあたりが遺伝診療の醍醐味かもしれません。

津吉 私の専門は婦人科のようですが、遺伝診療においては他のさまざまながんについても学ぶ必要があります。自分のブラッシュアップにつながります。もちろん、遺伝学的検査を活用したことでがんが治ったり、早期発見できたりすれば、患者さんに貢献できたというやりがいを感じられます。

奥野 最近の事例で、重篤な遺伝性疾患が疑われたお子さんの遺伝学的検査を行った結果、親御さんがその保因者であることが分かり、「次の出産をどうするか」をめぐって遺伝カウンセリングを受けていただきました。その際に、選択肢の一つとして「着床前遺伝学的検査(PGT-M)」を紹介しました。PGT-Mは体外受精で得られた胚から細胞を採取し、重篤な遺伝性疾患が引き継がれるリスクの低い胚を子宮に戻す検査・治療です。後日、その方がPGT-Mによって妊娠に至ったとお聞きした時は感動しました。

玉村 嬉しかったですね。PGT-Mは費用や審査などのハードルが高い技術ですが、ご夫婦が妊娠や出産に前向きになるお手伝いができるのは、やりがいになります。

池田 カウンセラーとしては、相談に来られた方に情報提供しながら「しんどいよね」「悩むよね」と寄り添うことぐらいしかできませんが、最終的にご自身でこれから先の生き方を決めたり、ある程度納得して次の一歩を踏み出したりしていただけることが、私のモチベーションになっています。

井川 遺伝診療部メンバーの活躍のおかげで、ようやく院内に遺伝診療部会が設置され、幅広い診療科の先生方に参加いただいて、今年2月に第1回部会を開くことができました。これを機に院内の理解をさらに促進し、遺伝診療の充実を図っていく方針です。ただし、まだまだマンパワーが足りませんので、拡充を目指す必要があります。また、県内の他の医療機関との連携も深め、福井の遺伝診療の底上げを牽引したいと思っています。

がん化学療法担当薬剤師のお仕事拝見！

「医師からも患者さんからも より深く信頼されるように」

薬剤部
がん化学療法管理室主任
通院がん化学療法部門通院治療センター専任薬剤師

根来 寛(右)

ねごろゆたか

昭和56年、福井県吉田郡永平寺町出身。平成17年3月、京都薬科大学薬学部卒業、平成19年3月、京都薬科大学大学院薬学研究科修士課程臨床薬学専攻修了。平成19年4月、福井大学医学部附属病院に薬剤師として入職。平成30年9月、がん化学療法管理室主任、令和7年3月、福井大学医学博士取得。がん診療推進センターがん診療標準化部門レジメン審査委員会委員、通院がん化学療法部門通院治療センター専任薬剤師。日本医療薬学会認定がん専門薬剤師、がん指導薬剤師、医療薬学専門薬剤師。

薬剤部
がん化学療法管理室薬剤師

重森 美奈(左)

しげもりみな

平成3年、福井県坂井市出身。同志社女子大学薬学部卒業後、平成28年4月、福井大学医学部附属病院に薬剤師として入職。呼吸器内科・外科病棟で病棟薬剤業務の経験を積み、令和2年より血液・腫瘍内科、感染症・膠原病内科病棟で病棟薬剤業務に従事。調剤管理室、医薬品採用評価室を経て、がん化学療法管理室に配属。令和5年、日本医療薬学会認定がん専門薬剤師を取得。

本院の薬剤部のがん化学療法管理室には、がん化学療法に精通したがん専門薬剤師が在籍しており、抗がん剤治療を受ける入院・外来患者さんの治療を専門的に支えています。調剤業務に加えて、薬剤の選択や投与量、スケジュール、副作用対策などを薬剤師の視点から検証し、最適な治療に向けて、医師に提案を行うこともあります。医師からも患者さんからもさらに深い信頼を得られるよう、日々スキルアップに励んでいます。

がん化学療法分野で キャリアを積みたい

— 薬剤師を志した動機は？

根来 祖母と母が薬剤師で、実家は今も薬局を営んでいます。親身な接客で信頼されている姿を見ながら育ち、自然と尊敬の念が生まれ、薬剤師を志すようになりました。

重森 最初から薬剤師にあこがれていたわけではありませんが、医療には興味があつて、患者さんの役に立ちたいと思っていました。親からの勧めもあつて薬学部に進学しました。

— 本院に入職した理由は？

根来 いずれ薬局を継承する前提で、地元の大学病院で経験を積みたいと思いました。10年前にがん専門薬剤師になり、レジメン（がん化学療法の標準治療計画）審査委員会委員に抜擢されたこともあって、がん化学療法の研究に励み、博士号を取得しました。責任ある立場に就いた今、引き続き本院でキャリアを積む意欲が高まっています。

重森 在学中に本院で実習した際に根来主任の指導を受け、看護師に情報提供したり、カンファレンスや回診中に医師に提案したりする姿に接して、病院薬剤師を志しました。実習中に胃がん患者さんの薬剤指導がうまくできず、



電子カルテを見ながら行う処方チェック

通院治療センターにおけるチーム医療ミーティング

で提案や助言を行いサポートします。

レジメンに基づく処方についても、薬剤師が治療前日までに投与スケジュールをはじめ、投与量、投与時間、支持療法について電子カルテでチェックし、疑問点や改善点があれば、主治医に連絡して意見を伝えます。

レジメン審査委員会(根来) 登録申請案件を承認審査

がん診療標準化部門レジメン審査委員会はがん診療推進センターに設置されている組織で、医師から登録申請された新しいがん化学療法、多剤併用化学療法や放射線治療の組み合わせなどを審査し、エビデンス(証拠)に基づく効果的かつ安全な治療が実施できるように支援しています。

委員は各診療科の医師、がん専門薬剤師(根来主任)、看護師で構成され、安全性、運用上の妥当性などを多角的に評価し、承認可否かを審査します。承認されたレジメンは院内の標準レジメンとして登録されますので、治療の統一性と安全性が担保されることになります。

処方内容を薬剤師がチェックする際も、登録されたレジメンに基づき妥当性を評価しています。多数のレジメンが登録されているので、胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、悪性リンパ腫など多様ながんにおいても標準化された治療がなされています。

応や指導を行っています。

点滴治療は長時間に及ぶことが多い上に、近年は患者さんが増加しているため満床になる場合も多く、頻回な個別対応が難しくなっているのが悩みの種です。

チーム医療ミーティング 多職種で妥当性などを検討

がん治療は多職種によるチーム医療が基本です。化学療法についても医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、検査技師らが連携し、安全管理を重視して実施されます。

通院治療センターでも当日の患者さんの体調や採血結果などから安全確保に疑義が生じた場合は、治療開始前に医師に処方の妥当性を問い合わせたり、看護師に患者さんの様子を確認しています。

治療計画策定のサポート 医師の相談受け提案や助言

主治医が作成するがん化学療法のレジメン(治療計画)は効果と安全確保の観点から、抗がん剤の選択だけでなく、薬物間相互作用や副作用・嘔吐・アレルギー予防薬なども含めて、患者さんの体格・体質・体調、既往歴、血液検査などを考慮しながら1セットでメニューを組みます。

検討要素が多岐にわたるため、計画を立てる際には主治医から意見を求められる場合がしばしばあり、がん専門薬剤師の視点

通院治療患者さんへの対応 副作用や注意事項を説明

入院治療が中心だった抗がん剤による化学療法は、新薬の開発や副作用を軽減する支持療法の発達で外来治療にシフトしてきています。患者さんにとっても社会生活を中断せずに治療を継続できるメリットがあります。

本院も専門的に外来で治療を行う通院治療センターを設置し、化学療法に精通した医師、がん専門薬剤師、看護師が連携し、相談対応や指導、安全確保と緊急時の対応などを実施しています。センターはゆったりとした空間にベッド、リクライニングチェア、準個室合わせ21床を備えており、テレビを見ながら、落ち着いた環境で治療を受けられます。

初めて治療を受ける患者さんには、薬剤師が治療開始前にスケジュールや副作用、自宅で気をつけることなどを説明します。2回目以降も、体調などを伺いながら相談対



通院治療患者さんに対する説明

がん化学療法をもっと学びたいと入職を決めました。

**提案が良い結果生み
信頼を得られる喜び**

— やりがいを感じる点は？ —

根来 医師のレジメン作成にかかわる業務は、がん専門薬剤師の専門性を活かして、やりがいを感じます。患者さんから副作用の相談を受けた際に、医師に処方の変更を提案して、採用になり、症状が改善して患者さんに感謝された時は嬉しいですね。こうした積み重ねで医師や患者さんの信頼が高まれば本望です。臨床での疑問を課題にした研究論文が評価された時も、達成感を得られます。

重森 患者さんにより安全な薬物治療を提供できるよう、治療前に併用薬や検査値、体格、既往歴などを確認し、不安の有無や生活スタイルなども把握するようにしています。患者さん個々に合わせた投与量の微調整や副作用を軽減する支持療法を医師に提案する機会も増えました。薬物間相互作用について医師から相談された時は、信頼されていると感じられて、やりがいにつながっています。治療が安全に継続できた時は喜びを感じます。



がん化学療法管理室ミーティング



(上)PDAを活用している薬剤ピッキング
(下)陰圧無菌室における抗がん剤の調製指導

に血中濃度を評価し、必要に応じて最適な投与設計を提案しています。

がん化学療法管理室ミーティング レジメンに関する議題が主

月1回のペースでがん化学療法管理室ではミーティングを開催しています。業務の特性上、議題はレジメン関連が中心です。

ここ1カ月間にレジメン審査委員会に登録申請された新レジメンの審査状況などを、根来主任が報告し、メンバー間で情報共有します。また、例えば新薬の調製支援の準備など、各自がレジメンに関して取り組んでいる業務の進捗状況を説明し、課題や対策などを話し合います。業務改善策を議題にすることもあります。

入院患者さんへの対応(重森) ベッドサイドで説明や助言

重森薬剤師は主に血液・腫瘍内科病棟を担当し、毎日半日は病棟で勤務します。主な業務は入院患者さんの対応です。電子カルテで処方された薬剤の内容や検査値、患者さんの体調の変化などを確認したうえで、ベッドサイドで薬剤の説明や相談対応を行います。必要に応じて病棟の看護師から、患者さんの容態などを聞き取っています。面談は治療開始時に1回、その後は週1回で行うのが基本です。

で行います。指示量をシリンジで吸い取って注入しますが、適正量か否かを重量で自動判定する「抗がん剤調製・監査支援システム」の導入で、チェック作業も最適化されました。

調製は薬剤師が交代で行い、患者さんのもとへ提供する前の最終工程として調製済み点滴バッグの監査を行っています。パソコンで適正量であることを確認し、異物の混入の有無も目視でチェックします。また、調製者の経験量に応じて、作業に立ち会い指導することもあります。

薬物血中濃度のチェック(重森) 結果を評価し主治医に伝達

薬の効果と副作用のバランスを取るために、血液中の薬の濃度を一定の範囲で保つ必要がある薬剤もあります。濃度が高すぎると副作用につながり、低すぎると十分な効果が得られないため、薬剤師が定期的



薬物血中濃度のチェック

調剤業務 携帯情報端末で正確・迅速に

院内で扱う薬剤の剤形は注射薬、内服薬、外用薬など多岐にわたっています。調剤室では剤形別に区域を分けて棚に在庫しており、処方に基づいて薬剤師やアシスタントが薬を取り揃えます。アシスタントが担当した分は、薬剤師が正しいかどうかを確認後、調剤して出庫します。

ほぼ全ての薬剤の出入庫は「計数調剤管理システム」を搭載したPDA(携帯情報端末)で管理しています。PDAで処方箋のバーコードを読み取り、表示される薬剤名と在庫棚番号に基づいてピッキングしますが、当該薬剤のバーコードと照合することで取り揃え間違いを防止できます。PDAは担当者全員に1台ずつ割り当てられており、出入庫の履歴照会や在庫数の把握、必要発注量の算出も簡便なため、業務が省力化されました。

点滴バッグの調製監査 薬剤量の正確さを最終確認

院内で使用する全ての抗がん剤の点滴バッグは、薬剤部製剤室の陰圧の無菌室で調製します。調製者は曝露防止のため、マスク、キャップ、ガウン、シュカパーなどを着用して行います。

バッグへの薬剤混注は安全キャビネット

「薬薬連携」による 患者さん支援も必要

— 現状の課題と抱負を。

根来 がん専門薬剤師になって10年目を迎え、指導的な立場にある者として後進の育成にもっと力を入れなければならぬと思っています。また、通院治療の患者さんが増えてきている中で、薬剤師が関与することで副作用をコントロールでき、治療の継続率が高まるというデータもありますので、処方に関する提案も含めて、患者さんにかかわる機会をもっと増やしたいですね。薬局薬剤師との「薬薬連携」で外来患者さんを支援する必要性も感じています。

重森 抗がん剤の副作用で見た目の変化に悩む患者さんが少なくありませんので、薬の説明や副作用対応だけでなく、ウィッグ、マニキュアなどのヘアアレンジケアも学んでいくつもりです。病棟業務は入院中の患者さん対応に限られますので、院外薬局と連携して退院後のフォローにもかかわれるようになると思います。臨床研究にも取り組み、現場で得られた知見を論文文化することで、より多くの患者さんの治療や生活の質の向上に貢献できればと思います。

ペイシェントハラスメントをご存じですか？

最近のニュースで、交通事故を起こした有名女優が搬送先の病院で看護師に暴行を加え逮捕された事件が報じられました。

これをきっかけに「ペイハラ（ペイシェントハラスメント）」への関心が全国的に高まり、これまで潜在的に処理されてきた「ペイハラ」による医療従事者への被害が顕在化しています。

「ペイハラ」って？

ペイシェントハラスメント（患者からの嫌がらせ）の略語で、患者さんやご家族から医療従事者に向けられる暴言・暴力・ハラスメントなどの迷惑行為を指します。対象は身体的な暴力やセクハラに限らず、謝罪や土下座の強要、さらには謝罪文の作成を迫るといった、過度で理不尽な要求も該当します。

本院を取り巻く現状

残念ながら本院でも「ペイハラ」は増加傾向にあります。このような事案が発生すると、対応に多くの人手と時間を要し、本来であれば他の患者さんの診療に充てられるべき資源が奪われ、関係のない患者さんにまで不利益が及ぶこととなります。また、ハラスメント行為は、24時間体制で患者さんの病気と向き合い、日々全力を尽くす医療従事者の心身と尊厳を傷つけ、疲弊させます。

本院の取り組みと対策

現在の対策として、医療従事者に対するハラスメント行為がどのようなものかを患者さんにもご理解いただくため、院内で策定した「ハラスメントや違法行為に対する基本指針」を院内掲示板や再来受付正面に掲示していますので、ご覧ください。

一方で、患者さんからの訴えを直ちにハラスメントと決めつけることはいたしません。なぜ訴えが起きたのか、本院の対応に問題はなかったのかを客観的かつ公平に検証し、至らぬ点があれば改善いたします。

しかし、たとえ本院の対応に問題があったとしても、「暴言」や「暴力」は許されません。そのような行為が確認された場合には、速やかに警察へ通報するなど、毅然と対応いたします。

患者さんと医療者は対等な立場にあり、信頼関係なくしては良い医療を提供することはできません。互いに尊重し合い、信頼を築くことが大切です。本院は、これからも信頼される病院であり続けるとともに、医療従事者が安心して働ける環境づくりに努めてまいります。



Small Steps for Your Health

からだにひと工夫 1

筋肉が作る“ホルモン”



筋肉は運動することで、全身に良い影響を及ぼす物質マイオカインを生み出します。毎日の運動や食生活にちょっとした工夫を加えて、マイオカインの働きを味方にしましょう。

筋肉が生み出す不思議な物質 マイオカインとは？

「マイオカイン」という物質を聞いたことがありますか。マイオカインは筋肉が運動した時に分泌し、血流に乗って全身に運ばれる物質の総称です。脂肪を燃やしやすくする物質として注目されたイリシンや血管の老化を抑制して動脈硬化のリスクを下げるアペリンをはじめ、多くの種類があり、脳や骨、内臓にも指令を送って、健康を守る大切な役割を果たしています。

ドーパミンやセロトニンが「幸せホルモン」と呼ばれるように、マイオカインは「筋ホルモン」と呼ばれ、発見されたのは今からおおよそ20年前です。従来、感覚的・経験的に語られてきた「運動は体に良い」ということにマイオカインが関与していることが科学的に明らかになってきました。

こんなにすごい！ マイオカインの嬉しい働き

マイオカインは、全身のさまざまな臓器に好影響を及ぼします。脂肪を燃

やしやすくしたり、血糖値を安定させたりするので、生活習慣病の予防に役立ちます。適切に体脂肪が減少すれば、より健康的な体型にもつながります。脳の神経細胞を守って記憶力や集中力を高めるほか、ストレスを軽減したり、ポジティブな気分を高めたりする働きがあることも分かっています。さらに骨を強くして骨粗しょう症を防ぐ働きもあります。

これらの働きは、体も心も元気に保つ「ウェルビーイング」に直結します。運動をすることで、マイオカインを自分の体内で活性化させることができます。

ちょっとした運動の工夫

マイオカインは、筋肉を動かすことによつて分泌されます。一般的に、スクワットなどの筋力トレーニングや、ジョギング、ウォーキングなどの有酸素運動は、全身の筋肉を使う運動として知られています。一方で、運動が苦手な方や、運動の時間を確保することが難しい方も多いでしょう。「咀嚼（そしゃく）」もまた、あごの筋肉（咀嚼筋）を使う動作です。食べ物をしっかりと噛むと、この咀嚼筋が働くので、口腔機能低下の予防には有効です。そのため、この咀嚼筋の働きとマイオカインとの関連性についても関心が集まっており、現在研究が進められています。

食生活では、たんぱく質や野菜をバランスよく摂ることも大切です。筋肉

をつくる材料が不足すると、せっかく運動してもマイオカインが十分に分泌されません。肉や魚・豆類・乳製品をしつかり摂る、野菜をたくさん食べる。そんな日常の積み重ねが、未来の健康と内面からにじみ出る美しさを育みます。運動と食生活の両輪で、マイオカインがもたらす働きを味方につけましょう。

日常に取り入れやすいひと工夫リスト

筋肉を支える小さな運動

- ☑ 移動はできるだけ徒歩で
- ☑ エレベーターより階段を選ぶ
- ☑ 時々スタンディングデスクを活用

筋肉を支える食生活

- ☑ 毎食少しずつたんぱく質を（肉、魚、卵、豆腐、ヨーグルトなど）
- ☑ 野菜や海藻でビタミン、ミネラル、食物繊維を補う
- ☑ 「よく噛む」ことを意識する

マイオカインは筋肉から分泌されるタンパク質性の生理活性物質です。
日常の「からだにひと工夫」で筋肉は働き、マイオカインを生み出します。

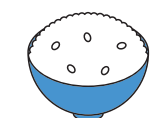
食薬 良良

カラダがよろこぶ
健康食材

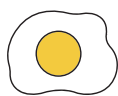
「たんぱく質」

上手に摂れていますか？

管理栄養士 のむら
野村 香里 かおり



米飯 150g×3杯
(約4g×3)



卵 1個
(約6g)



納豆 40g
(約6g)



鮭 50g
(約12g)



豚肉ロース 50g
(約10g)



牛乳 200ml
(約6g)

図2 たんぱく質50gを摂るのに必要な食材の目安量
(カッコ内はたんぱく質量)

年齢(歳)	男性 推奨量(g)	女性 推奨量(g)
18~29	65	50
30~49	65	50
50~64	65	50
65~74	60	50
75以上	60	50

図1 たんぱく質の推奨量
日本人の食事摂取基準(2025年版)より抜粋

たんぱく質の役割

たんぱく質は、筋肉・臓器・皮膚・血液・毛髪など、体のさまざまな組織を作るための材料となります。また、ホルモンや酵素・抗体などの体調節機能成分としての役割や、免疫や代謝・血圧の調整、神経機能の維持などの役割も担っており、生命維持のために欠かせない重要な栄養素のひとつです。食事から摂取したたんぱく質は「アミノ酸」に分解され、体内でさまざまな働きをします。疲労回復や睡眠の質改善などにも役立つと言われています。

たんぱく質の適正摂取

図1を見ると、たんぱく質の推奨量(ほとんどの人が充足している量)は性別・年齢で異なることが分かります。また、体格・健康状態によっても必要なたんぱく質量は変化し、特に腎疾患のある方や妊婦・乳幼児では、個別の状況に応じた調整が必要です。

では、たんぱく質が不足するとどうなるでしょうか。たんぱく質が不足すると、免疫機能が低下して抵抗力が弱くなり、さまざまな体の不調に繋がります。また、筋力や体力も低下しやすくなります。特に高齢者は若い世代に比べて筋肉を合成する力が弱まるため、より多くの摂取が必要となります。

一方で、たんぱく質の過剰摂取は腎臓への負担や肥満の要因になるなど、さまざまな健康問題に繋がります。既に血液検査等で腎機能の低下を指摘されている方は特に注意が必要です。

18歳以上の女性の推奨量であるたんぱく

質50gを摂るためには図2が目安量となります。普段の食事と比較して、摂取量を見直してみましよう。食品に含まれるたんぱく質量をチェックする習慣を身に付けるとより良いですね。男性は、肉・魚・大豆製品の量で調整して推奨量に近づけましよう。

たんぱく質を上手に摂取する「ツ」

① 1日3食に分けて摂る

たんぱく質は1回の食事だけで摂取するのではなく、1日3食に分けて摂るようにしましょう。これにより、体内で効率良く利用されやすくなります。

② たんぱく質はさまざまな食品から摂る

たんぱく質は、肉類・魚介類・卵類・大豆・大豆製品・乳製品などに多く含まれ、それぞれに含まれるアミノ酸の種類が異なります。食事ごとにたんぱく質源の種類を変えることで栄養素バランスが整いやすくなります。

③ 不足した分は「間食」で補う

食事からたんぱく質を十分に摂取できない場合は、間食を活用するのもオススメです。特に、高齢者のフレイル(虚弱)やサルコペニア(筋肉量減少)を予防するためには十分なたんぱく質の摂取が重要となるため、間食でたんぱく質を多く含む食品や栄養補助食品を摂取することも大切です。

自分に必要な量を理解し

栄養素バランスの良い

食事を心がけましよう。

健康お役立ちグッズ

今年の夏は、6月頃から全国各地で気温が上昇し、7月～8月にかけては35℃を超える危険な暑さが頻繁に続いていました。そのため、肌ダメージを感じた人も多かったのではないのでしょうか。

夏の肌ダメージとは、強い紫外線による日焼け・汗・暑さ、冷房などによる、乾燥など肌へのネガティブな影響や変化を指します。影響としては、日焼け(顔・体)、毛穴の開き・詰まり、テカリ、ごわつき、肌荒れ、シミ・くすみなどが挙げられます。

夏に傷んだ肌の回復、そして冬に向けての肌対策として、下記の商品はいかがでしょうか。

セルニュープラス DR HQコンシーラー (SPF50+, PA++++)

ハイドロキノン2%配合のリキッドタイプ部分用ファンデーションです。

【特徴】しみ・そばかすの色素沈着部位やくすみなど気になる部分をカバーします。

【使用方法】(朝のお手入れ時に)気になるシミの部分に直接つけてやさしくなじませてください。

セルニュープラス DR HQスティッククリア

ハイドロキノン4%配合のスティックタイプのクリームです。

【特徴】しみ・そばかすの、気になる部分に直接なじませることで、集中ケアすることができます。

【使用方法】化粧水やクリームなどでお肌をととのえた後、お肌の気になる部分に直接すべらせてください。



セルニュープラス
DR HQスティッククリア

価格 3,300円(税込)

セルニュープラス
DR HQコンシーラー

価格 3,850円(税込)

ベートル保湿ローション

乾燥した皮膚の保湿成分を補う保湿の3大因子(スクワラン・セラミドAP・アルギニン)が含まれたお肌に優しい保湿剤です。

- ◆少量でよく伸び、肌になじみやすい使用感です
- ◆べたつきが少なく、さっぱりとした使い心地です
- ◆赤ちゃんからお年寄りまで幅広い年齢層でお使いいただけます
- ◆無香料・無着色・弱酸性・ノンアルコールの低刺激処方です



ベートル 保湿ローション

価格 1,100円(税込)

ベートル 保湿ウォーター(参考商品)

価格 1,320円(税込)

A棟ファミリーマートにて、上記商品を取り扱っています。(ベートルはB棟ファミリーマートでも取り扱っています。)



商品につきましては、お気軽に店舗スタッフまでお申し付けください。

夏の暑さで傷んだ肌、
これから来る冬に向けての肌対策



患者さんの声



患者さんから寄せられたご意見やご質問に対してお答えしていきます。
随時ご意見やご質問を受け付けております。お気軽にご投稿ください。

VOICE

入院したばかりの時、ナースコールを呼んでも全く来ない。返事もない。トイレとかだと急病ではないかもしれないけど、本人にしたら出そうなのを我慢している。何か対応が以前より良くない。

ANSWER

ご不安と不快な思いをさせてしまったことに心よりお詫び申し上げます。ご意見を受け、病棟スタッフで話し合いを行いました。実際、ナースコール対応が遅い現状があることをスタッフも感じておりました。今後は、病棟全体で患者さんを診ている意識を高めて患者さんの対応をしてまいります。

VOICE

消化器外科で手術をした。術前2日の平日から入院するとの決まりがあるそうだが、その前にいろいろな検査を済ませているのになぜと思う。術前検査は通院で済ませ、入院は術前1日にしてもらえたらありがたい。

ANSWER

手術の際にご本人、ご家族様に多大なご負担をおかけし、申し訳ございません。本院では、主治医、麻酔科医師からの術前説明、麻酔説明を行うため、また手術前数日の体調の具合確認を行うため、原則として手術2営業日前に入院していただくこととしており、患者さんの安全を最優先に考えています。

VOICE

大部屋でマナーを守らない患者がいても注意していない。

ANSWER

大部屋でのマナーについて不快な思いになられたこと申し訳ありませんでした。テレビのイヤホン使用、携帯電話使用、面会者への配慮など、マナーについて入院時に説明することを徹底してまいります。また、マナーを守っていない時には注意することを看護部職員に周知いたしました。

感謝のこぼ

- 救急搬送で当日から入院しました。スタッフの皆さんのあたたかい支援に感謝しています。ありがとうございます。真夜中にもかかわらず点滴の交換・ナースコールにも笑顔での対応ありがとうございます。食事も美味しくて、調理してくださる方、またゴミの回収をしてくださる方、ありがとうございます。
- 3カ月ごとに診察に來させていただけており、診察と会計が終わったらいつも写真を見て帰っています。いつもとても癒されています。ありがとうございます。
- 入院の時も外来で訪れた時もいつも親切にしてくださる、嫌な思いをしたことがない。また、新しい病棟になり、個室が増えたことも有難い。
- 1階外来ホール掲示板に「夫が入院中食事の不満を話していた」とあった。私はこれまで大学病院に何度も入院し、毎日3回の病院食を食べているが大変おいしい。毎食2人前食べたいほどだ。栄養管理士は栄養、カロリー等バランス良く患者のために日々考えている。これからも今まで通りおいしい病院食の提供をお願いします。私は付いている献立表を毎回退院時に持ち帰り参考にしています。

編集後記

● 今年の秋は暑さが残る傾向がありましたが、急に秋が深まり、寒くなってきました。冬型の気圧配置が厳しくなり、大雪の到来も予想されていますので、過去の教訓からいろいろ備えておきたいですね。

● 今号では、副院長の小坂浩隆先生、山内高弘先生が「教育×研究」をテーマに、本院が「特定機能病院」として果たすべき使命について語り合っていたきました。教育・研修と研究・臨床がシームレスにつながるように新しいシステム導入によつて環境が整えられ、次世代を担う医療人育成の取り組みが確かな歩みとして進んでいます。

● 本院の最新・最適な医療に関しては、呼吸器内科、感染症・膠原病内科、眼科のトピックス、進化を続ける遺伝診療、多職種と連携して安全で有効な薬物療法が提供できるように協働しているがん化学療法管理室の薬剤師の方々の仕事紹介をお伝えしました。日々の診療や研究を通じて積み重ねられた知の力が、患者さん一人ひとりの支えとなることを願っています。

● これからもFrontierは、医療を支える人々の思いと挑戦を丁寧に伝え、本院の今をわかりやすくお届けしていきます。次号もどうぞご期待ください。
(広報室)



安心と信頼のために
その先を目指して。

病気と治療の検索サイト

3つの検索機能で病気と治療の記事が読める



● 症状から検索

● 50音順に病名検索

● カテゴリーから検索

病気のことが気になったら このサイトでチェック!



CLICK

気になる症状・病気はありませんか?

病気と治療の検索

クリックして検索する

せきや体の痛み、発熱などの症状や病名、病気のジャンルから治療情報を探せます

※本院サイトトップページからもご覧いただけます。

